



双塔

カトリック新潟教会

2019年2月
No. 369

親孝行

協力司祭 ホセ・ルイス・ロレンソ

故郷のレガズピ市からの便りです。12月27日、日本からフィリピンのマニラ空港に着いて、神言会のミッション・ハウスに行きました。一泊してから、実家に帰るため、また飛行機に乗って、マニラの空港から出発しました。しかし、故郷の天気が悪くて、飛行機が着陸できないため、マニラに戻ってしまいました。私はそのまま、バスのターミナルに行って、夜行バスに間に合いました。マニラからレガズピ市まで普通12時間かかるが、台風の影響で、道のあちこちが洪水になっていて、いくつかの町では渋滞でした。結局、マニラからレガズピ市まで16時間かかりました。それに家に着いたら、外はまだ洪水だったので、仕方がなくて浸りました。やっと、父に直接あいさつができました。

父はもうほとんど寝たきりで、24時間の介護者が必要です。この便りを書いている今、たった一週間ばかり経っていますが、父のお世話している介護者たちにお礼を申し上げたいと思います。いや、ほめてあげたいし、皆のことは尊敬しています。彼らのしてくれることは、個人的に見て、もしくは体験するまで、人々は病気の人を看病するのはどんなに大変なのか分からないと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の帰国休暇はほとんど実家で過ごすことにしました。毎月、一週間程度マニラにも滞在することはありますが、それはいろんな同窓会に参加するため、または神言会の大神学校でミッショントークをするためです。神学生たちは海外で働いている宣教師たちの分かち合いを聞くと、自分たちも海外で福音宣教をしたいという気持ちが燃えていくでしょう。同窓会は小学校、高校、大学、医学部、そして神学校のクラスメイトたちとのそれぞれの集まりです。とくに今年は私の司祭叙階30周年になりますので、それぞれのグループとミサを捧げることができたら最高です。

この前、シスターたちが父にお見舞いしてくれました。やはり、病人はいくら寝たきりになっても誰かが訪問するとうれしくなるとその時私はあらためてわかりました。「私が病気の時に、あなたたちは訪問してくれました」というイエス様のことばが頭に浮かんできました。父との時間、私は自分の福音宣教の話をして、一緒にロサリオを祈って、そして彼の大好きな歌を歌って、親孝行したいと思います。